

市民向け防災イベント「いつものもしも CARAVAN」に出展しました（2024/7/6-7）

テーマ：市民へのアウトリーチ活動

場 所：イオンモール名取（宮城県名取市）

URL：<https://www.muji.com/jp/ja/specialfeature/other/itsumomoshimo/articles/>

2024年7月6日（土）、7日（日）に宮城県名取市のショッピングモール「イオンモール名取」で、市民向けの防災イベント「いつものもしも CARAVAN」（株式会社良品計画／イオンモール株式会社の共催）が開催され、災害科学国際研究所広報室と一般財団法人世界防災フォーラムが共同でブース出展しました。家庭でできる災害関連の実験を披露したり、ハザードマップの読み方のコツを伝えたりしました。ブース来訪者の多くは小学生以下の子どもを含むファミリーで、6日は約 250 人、7日は約 300 人に立ち寄っていただきました。

披露した実験は、お米を使った「液状化」、炭酸水の入ったペットボトルを使った「竜巻」に関するもので、当研究所の書籍『地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る』（岩崎書店）から引用しました。液状化と竜巻に似た様子を、家庭にある材料で簡単に再現できるため、親子連れにも興味を持って実験に参加してもらうことができました。液状化は今年の元日に発生した能登半島地震でも多く起こり、そのことを当研究所研究者の災害調査写真を見せながら伝えると、身近に起こりえる災害であることを実感いただけたようでした。

ハザードマップのコーナーではパソコンを使って、国土交通省の「重ねるハザードマップ」のサイトを使う方法を紹介しました。災害は土地の形と密接に関係するため、マップを持ってまちの地形を実際に確認することもお勧めしました。イベントに合わせて作成した「ハザードマップきほんの話」の動画もモニターで流しました。

ブース来訪者の大半は「モールでたまたま見かけた実験が面白そうなので立ち寄ってみた」という方々でした。今回のイベントは、普段は防災や災害に特段の関心がない市民と双方向でコミュニケーションできる貴重な機会となり、字義通りの「アウトリーチ活動」となりました。当研究所と世界防災フォーラムの活動を市民に知っていただく機会にもなりました。

今後も、当研究所や世界防災フォーラムと接点の少ない市民に出会えるイベント等があれば、参加したいと考えています。

ブース対応と準備：災害科学国際研究所広報室（今野、中鉢、鈴木、小森、福島）
世界防災フォーラム（吉野、早坂、松浦）

資料作成協力・監修：小野裕一（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）
佐藤健（防災教育実践学分野）
森口周二（計算安全工学研究分野）
原勇貴（都市直下地震災害（応用地質）寄附研究部門）

名取市役所のご厚意で「名取市ハザードマップ」「名取市防災マニュアル」の実物も数部、ご提供いただきました。

文責：今野公美子（広報室）
（次頁につづく）



店が立ち並ぶ、お客さんの多い場所でのブース展開



ブースの看板



米の入ったお釜をゆすって金属製スプーンを沈める、液状化の実験



炭酸水入りペットボトルを使った竜巻の実験



ハザードマップの説明コーナー



世界防災フォーラム2025 をPR